


京・地域福祉推進指針の具体的な取組状況

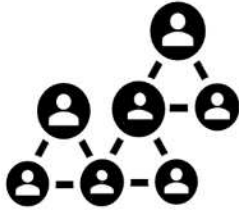
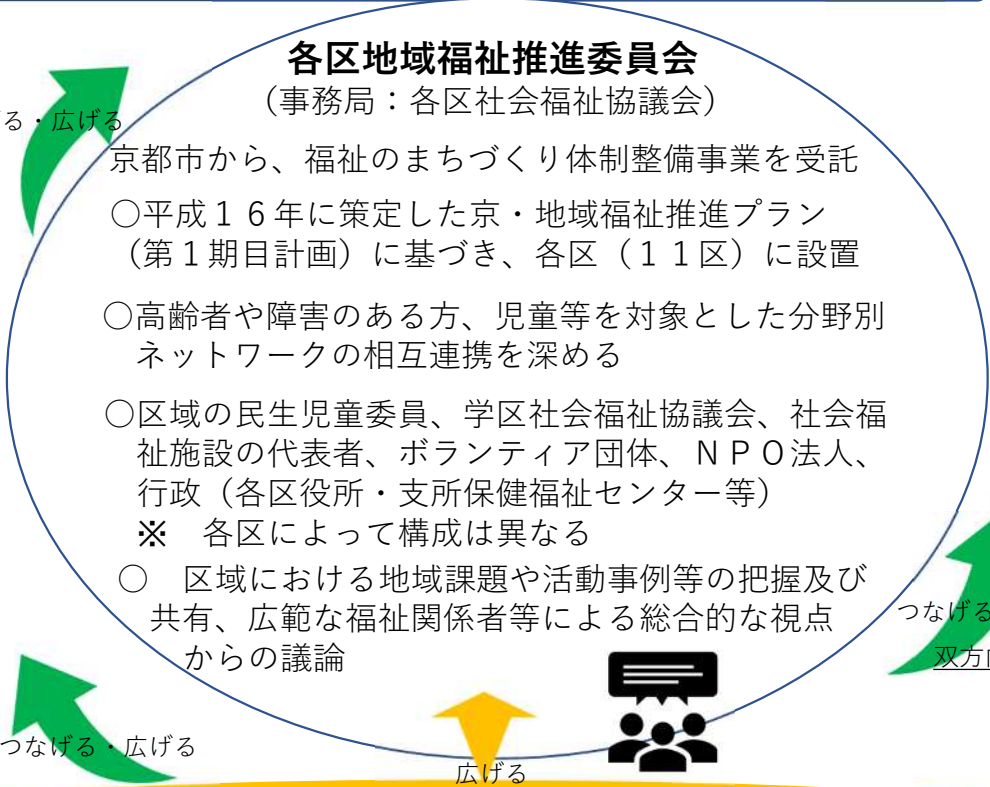
福祉のまちづくり体制整備事業について（R1.6～※下線箇所R6.4～）

地域福祉活動に関わる多様な主体のつながりを促進する場の展開


- 区域における地域福祉活動の多様な主体の連携・協働のきっかけづくりを目的に、顔の見える関係性を構築するための交流や意見交換の場・機会を企画、実施 

R6.4改定のポイント

令和6年3月改訂の「京・地域福祉推進指針」が示す方向性を踏まえ、**多様な主体の連携・協働につながるような双方向的な取組を柔軟に実施できるように、R6.4に実施要綱を改訂**



身近な地域における地域課題や活動事例の把握及び社会福祉施設をはじめとした多様な主体の協働による取組事例の共有、発信

- 身近な地域における地域課題や活動事例の把握
- 社会福祉法人の「地域における公益的な取組」の支援・掘り起こし
- 取組事例の共有及び発信 

地域の課題

地域の思い
地域内での様々な取組

地域内の様々な資源

福祉のまちづくり体制整備事業 令和7年度実施状況

＜誰もが気軽に立ち寄れる、区役所の交流スペースを使った場づくり＞ 左京区の「ほっとふらっとさきょう」の取組

左京区地域福祉推進委員会、左京区社会福祉協議会、左京区コミュニティHubの三者で、「ふくし(ふつうのくらしのしあわせ)」に気付く、出会う」をテーマに、生きづらさを抱えた方、他の居場所に参加しにくい方など、誰もが気軽に立ち寄れる、人と人がつながり、出番が持てる居場所づくりをしたい！との思いで、区役所1階の交流スペースで「ほっとふらっとさきょう」を毎月開催を始めました。

企画時の想い

1

「ふくし(ふつうのくらしのしあわせ)」に気付く、出会う」をテーマに、生きづらさを抱えた方や他の居場所に参加しにくい方、社会的に孤立している方でも、誰もが気軽に立ち寄れる、人と人がつながり、出番も持てる「居場所」をつくりたい

2

公共性の高い区役所1階の交流スペースで開催すれば、安全で、入りやすい居場所となるのでは

3

社会福祉協議会や左京区役所のネットワークを活かし、地域、関係団体、専門機関など多様な機関と連携し、多様な住民が「ふくし」を意識しながら主体的につながる場としていきたい

各回、「ふくし」に気付く、出会う」ためのねらいを定めて挑みました。

例えば・・・

■7月開催

乳児検診日に合わせ、子育て世代をターゲットに！ブースでは、ボランティア団体の読み聞かせや、区身連の卓球バレー体験などを実施

■9月開催

土曜日の開催にチャレンジ！学生や親子連れをターゲットとし、ブースでは、事業所のeスポーツ体験会や左京図書館による移動図書館・読み聞かせなどを実施

▶ 目指した“地域づくり”

ふらっと行ける場、ほっとできる場を通じて、多様な人の「出会いとつながり」、「参加や出番」を生みながら、みんなで“ふくし(ふつうのくらしのしあわせ)”について考えていきたい。



取組のポイント

- ふらっと行ける場・ほっとできる場(居場所)
- 相談できる場(重層的支援の間口)
- つながる場(結節点)
- 出番がある場(参加支援)

ほっと スペース



落ち着いた雰囲気ですっきりと過ごしていただきながら、気軽に困りごと相談できる等、参加される方がほっとできる空間。

ふらっと スペース



参加される方の好きなことや興味のあることをキッカケとして、ふらっと立ち寄ることができる空間。

イベント スペース



参加される方の得意なことを発表する場、想いを発信する場、各団体・関係機関の「ふくし」を啓発する場などをきっかけに多様なつながりが生まれる空間。

参加団体の声

自分達の取組を知ってもらいたい機会になった など

▶ 注目した点・きっかけ

近年、複雑化・複合化した課題が増える中、高齢、障害、子ども、生活困窮などの分野を問わず、包括的な支援や取組を強めていく必要があると感じていました。

※地域福祉推進委員会や区役所(区Hubに位置付け)と連携しながら実施